

## 原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2022 月 5 月」

### 2022年

- 5 月 2 日 日本時間午前 4 時 53 分ごろ、ジョージア(グルジア)でマグニチュード 5.3 の地震が発生した。
- 5 月 2 日 14 時 52 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.2 と推定。石川県珠洲市で震度3。
- 5 月 2 日 16 時 08 分ごろ、日向灘を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.0 と推定。宮崎県宮崎市、日南市、串間市、鹿児島県鹿屋市、大崎町、肝付町で震度3。
- 5 月 2 日 22 時 21 分ごろ、京都府南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.4 と推定。京都府亀岡市で震度4、京都府京都北区、京都上京区、京都左京区、京都中京区、京都下京区、京都南区、京都右京区、京都伏見区、京都山科区、京都西京区、宇治市、向日市、長岡京市、八幡市、南丹市、大山崎町、久御山町、大阪府高槻市、島本町、能勢町、兵庫県三田市で震度3。
- 5 月 3 日 15 時 50 分ごろ、鳥取県東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.0 と推定。宮崎県 宮崎市、日南市、串間市、鹿児島県鹿屋市、大崎町、肝付町で震度3。
- 5 月 3 日 19 時 40 分ごろ、東京都多摩東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.6 と推定。栃木県宇都宮市、栃木市、佐野市、群馬県桐生市、渋川市、みどり市、板倉町、千代田町、大泉町、邑楽町、東京都練馬区、西東京市、神奈川県 横浜鶴見区、横浜神奈川区、横浜保土ヶ谷区、横浜港北区、横浜緑区、川崎区、厚木市で震度3。
- 5 月 4 日 12 時 54 分ごろ、宮古島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.4 と推定。沖縄県宮古島市で震度3。
- 5 月 4 日 IAEA のグロッシ事務局長が、イスタンブールでロシア高官らと会談したと明らかにした。グロッシ氏は、ロシアが侵攻したウクライナにある原発の安全確保の緊急性を強調、IAEA が協力する用意があると訴えた。
- 5 月 5 日 日本時間午前 6 時 41 分ごろ、フィリピン・ミンダナオ島沖でマグニチュード 5.6 の地震が発生した。
- 5 月 5 日 18 時 42 分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.8 と推定。茨城県筑西市、栃木県宇都宮市、足利

市、佐野市、鹿沼市、下野市、高根沢町、群馬県桐生市、大泉町で震度4、福島県から関東広域で震度3。

- 5月5日 東京電力は、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出に向け、沖合約1キロに整備する海底トンネルの放出口の掘削工事を開始した。
- 5月6日 三菱電機が、原子力発電所などに出荷した変圧器で不正をしていた問題で、変圧器をつくっていた系統変電システム製作所の国際認証が一時停止されたと発表した。
- 5月8日 午前9時29分ごろ、茨城県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。茨城県水戸市、日立市、笠間市、城里町で震度3。
- 5月9日 東海第二原発再稼働判断を巡り、「実質的事前了解権」を持つ東海村と周辺5市の首長でつくる原子力所在地域首長懇談会が開かれた。安全対策工事の進捗を視察した首長は原電に対し、工事内容を住民に丁寧に説明するよう求めた。
- 5月9日 15時23分ごろ、与那国島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは6.6と推定。沖縄県与那国町で震度3。
- 5月10日 日本時間午前7時33分ごろ、南太平洋のパプアニューギニア沖でマグニチュード6.3の地震が発生した。
- 5月10日 南太平洋のバヌアツ沿岸でマグニチュード5.7の地震が発生した。
- 5月10日 宮城県が最大クラスの津波の浸水想定を発表した。それによると、女川原発で事故が起きた場合の避難ルートが浸水の範囲に含まれていた。東日本大震災で観測された13メートルとおおむね一致する高さ。宮城県は、敷地内への浸水はなく、工事中の高さ29メートルの防潮堤で浸水を防ぐことができるとしている。
- 5月11日 日本時間午前6時6分ごろ、チリとアルゼンチンの国境付近でマグニチュード6.8の地震が発生した。
- 5月11日 IAEAのラファエル・グロッシ事務局長が、使用済み核燃料が保管されているウクライナ北部チョルノービリ(チェルノブイリ)原発で、遠隔監視システムが2か月ぶりに復旧したと発表した。
- 5月12日 福島第一原発事故で全ての住民が避難を続ける福島県双葉町で、政府主催の住民説明会が開かれた。政府は帰還困難区域のうち、特定復興再生拠点区域の外側の地域について、2022年夏にも帰還意向確認の調査を始め「24年度をめど」に除染を開始するとの方針を示した。
- 5月12日 自民党の原子力規制に関する特別委員会が、原発再稼働の前提となる原子力規制委員会の審査効率化など求める提言をまとめ、山口壮環境相

に手渡した。提言は「審査の多くが行政手続法上の標準処理期間である2年をはるかに超えて遅延している」としている。

- 5月13日 日本時間午前6時55分ごろ、ペルーの首都リマ近郊でマグニチュード5.5の地震が発生した。
- 5月13日 浜岡原発再稼働に向けて審査で、中部電力は南海トラフの地震で発生する最大の津波の高さの想定をさらに20cm高い22.7mとしたことを発表した。
- 5月13日 経済産業省が、2050年の脱炭素社会の実現にむけた「クリーンエネルギー戦略」の中間整理を示した。ウクライナ侵攻後の燃料価格の高騰などを受け、再生可能エネルギーとともに原子力の「最大限の活用」を明記した。
- 5月13日 中国電力が、10日に島根原発の協力会社の依頼で鳥の巣の撤去作業の下見に訪れた外部業者が、有効期限を自ら書き換えた身分証明書を使って構内に入っていたと発表した。原発の安全性に影響はないとしている。
- 5月13日 山口壮原子力防災相が、原発への武力攻撃に対する防衛について「ミサイルが飛んできてそれを防げる原発はない。世界に1基もない」と閣議後の会見で明言した。
- 5月14日 午前8時08分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。石川県珠洲市で震度3。
- 5月16日 日本時間14時25分ごろ、カムチャツカ半島の南端でマグニチュード6.2の地震が発生した。
- 5月16日 14時29分ごろ、和歌山県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。和歌山県湯浅町、由良町、日高川町で震度3。
- 5月17日 東京電力が、3月29日にロボットの中に水が入り機器の故障などで中断していた福島第一原発1号機の原子炉格納容器の内部調査を再開した。
- 5月17日 関西電力が、原発の長期運転を支援し、IAEAのプログラム「SALTO」のチームが、運転開始から40年を超えて再稼働した美浜原発3号機を調査すると発表した。調査は国内初で、2024年度末までに実施する。
- 5月18日 原子力規制委員会が、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出について東京電力が策定した計画を「安全性の問題ない」として了承した。東京電力の計画では、トリチウムなどの放射性物質を含む処理水について、国の基準値の40分の1以下まで海水で薄め原発から1キロほどの沖合で放出することになる。
- 5月18日 ロシアのマラト・フスヌリン副首相が、ウクライナにあるザポリージャ原子力発電所について、同原発が発電する電気の代金をロシアに支払わなけ

れば、ウクライナの送電線網から切り離すと述べ、事実上接收する可能性を示唆した。

- 5月18日 ウクライナの国営電力会社「ウクルエネルギー」が、ロシア軍支配下にあるウクライナ国内の原子力発電所からロシアに送電するようロシア側から求められ、「物理的に不可能」として拒否したと発表した。
- 5月19日 林外相とIAEAのラファエル・グロッシ事務局長が会談した。日本政府が、ロシアから侵攻を受けるウクライナの原子力施設の安全を確保するため、IAEAを通じて総額2・7億円規模の支援を行うことを示した。
- 5月19日 IAEAのグロッシ事務局長が、福島第一原発を視察のため訪れ、汚染処理水の海洋放出方針を受けた取り組み状況などを確認した。視察後、2020年2月に訪れた前回と比較し「期待以上の進捗で感銘を受けた。廃炉や放出に向けたインフラが整ってきている」との認識を示した。
- 5月19日 東京電力が、福島第二原発で許可証を持たない車両が去年11月、ことし1月に出入りするテロ対策上の不備があったと発表した。
- 5月19日 トンガ沿岸でマグニチュード5.8の地震が観測された。
- 5月20日 浜岡原発の原子力災害に備え、要配慮者が一時避難する訓練が行われた。
- 5月20日 島根原発で去年5月、管理事務所で保管していた投光器用のバッテリーから煙が出る火災が発生したことに関連して、鳥取県と米子、境港両市が施設内の立ち入り調査を実施した。
- 5月20日 原子力規制委員会が、志賀原子力発電所の安全性を審査する会合で、一部の断層の薄片について調べ直すよう求めたほか、再び現地調査を行う方針を示した。
- 5月20日 鹿児島県の塩田康一知事が定例会見で、川内原発運転延長について、延長時に地元の意見を反映させるための協定を、九電側と新たに結ぶ考えがないことと共に、運転延長の可否判断では、県民の意向を把握するため原発から30キロ圏の自治体から「意見を聞く必要がある」とした。
- 5月20日 東京電力が、福島第二原発に残る使用済み核燃料約1万体の取り出しについて、2027年度に1号機から着手する計画を示した。
- 5月20日 IAEA グロッシ事務局長が、福島第一原発の処理水の排水について長期にわたり日本政府と連携を続ける姿勢を示した。
- 5月20日 新潟県の技術委員会で、柏崎刈羽原発の『IDカードの不正使用』や『不正な侵入を検知する設備の故障など』の2つの問題について、原子力規制庁から検査の中間取りまとめが報告された。「東電の全社的な問題ではなく、柏崎刈羽発電所固有の問題」とであると判断している。

- 5月20日 原子力規制委員会が、志賀原発2号機の安全審査について、活動性の有無が焦点となっている敷地内の断層についての判断は今回も見送られ、改めて現地調査を行うことが決まった。
- 5月20日 電気事業連合会会長の池辺和弘九州電力社長が定例会見で、エネルギー価格が上がる中、日本が原子力発電にどう取り組むか「本気で議論すべきだ」と述べた。
- 5月20日 福島第一原発1号機の原子炉格納容器の内部調査で、格納容器内の広い範囲で新たな堆積物が確認された。東京電力は「燃料デブリの可能性は否定できない」として、今後確認するための調査を進める方針。
- 5月20日 19時58分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。石川県珠洲市で震度3。
- 5月22日 島根原子力発電所2号機の再稼働を巡る関係自治体の同意表明が出そろった中、島根県の丸山知事が非常時の現地指揮所となる緊急時対策所などを視察した。
- 5月22日 日本時間午前6時50分ごろ、フィリピンのルソン島沖でマグニチュード5.8の地震が発生した。
- 5月22日 12時24分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.8と推定。福島県いわき市で震度5弱、福島県郡山市、田村市、猪苗代町、古殿町、福島広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町で震度4、宮城県から新潟県まで広域で震度3。東海第二原発、福島第一・第二原発ではこの地震による被害の報告はないという。
- 5月22日 21時22分ごろ、日高地方東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。北海道浦河町で震度3。
- 5月23日 午前8時20分ごろ、徳島県北部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。徳島県美馬市、つるぎ町、香川県さぬき市で震度3。
- 5月23日 午前11時01分ごろ、青森県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.4と推定。北海道浦河町、様似町、岩手県盛岡市で震度3。
- 5月24日 原子力規制委員会が、敦賀原発2号機の審査資料を不適切に書き換えた問題を巡り、日本原子力発電本店の立ち入り調査を始めた。立ち入りは、2021年8月に審査を中断して以降、2回目。
- 5月24日 福島県や第一原発の周辺自治体、専門家で構成される廃炉安全監視協議会が、原子力規制委員会に汚染処理水放出計画を「事実上合格」と判断したことについて、説明を求めた。原子力規制庁の担当者は「放出される処

理水が国の基準値を満たすこと」や「設備が地震などにも耐えられる設計であることが確認できた」とした。

- 5月25日 原子力規制委員会の更田委員長が、福島第一原発事故でメルトダウンした1号機で原子炉を支えるコンクリートの壁が壊れている可能性が分かったことに対し、地震が発生した際の危険性に懸念を示した。
- 5月25日 柏崎刈羽原発で、東京電力の社員が期限切れの入構証で柏崎刈羽原発の構内に入っていた。今月11日、社員が移動用のバスに乗って柏崎刈羽原発の正門から構内に入ろうとした際に警備員が入構証の期限が切れていることを発見。入構証の期限は先月30日で切れていて発覚するまで3回構内に入っていた。
- 5月26日 日本時間午前6時43分ごろ、メキシコ南部のオアハカ州でマグニチュード5.5の地震が発生した。
- 5月26日 東京電力が、福島第一原発1号機の原子炉格納容器底部で見つかった堆積物から、核燃料に含まれるウランやプルトニウムが核分裂する際に放出される中性子線を高いレベルで検出したと発表した。溶融核燃料(デブリ)由来と推定される。
- 5月26日 島根県議会で、島根原発2号機の再稼働を巡って再稼働に同意する決議が行われた。
- 5月26日 日本時間21時02分ごろ、ペルー南部でマグニチュード7.2の地震が発生した。
- 5月27日 14時37分ごろ、長野県中部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.5と推定。長野県筑北村で震度3。
- 5月27日 17時59分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。宮城県仙台青葉区、石巻市、名取市、角田市、岩沼市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、宮城川崎町、丸森町、亘理町、山元町、福島県相馬市、田村市、南相馬市、福島伊達市、国見町新地町、飯舘村で震度3。
- 5月28日 日本時間17時10分ごろ、ロシア・カムチャツカ半島の火山で大規模な噴火が発生した。
- 5月29日 午前6時30分ごろ、父島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.9と推定。東京都小笠原村で震度3。
- 5月29日 15時55分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.4と推定。茨城県ひたちなか市、茨城鹿嶋市、銚田市、東海村で震度4、福島県から関東広域で震度3。

- 5月29日 新潟県知事選で再選を果たした花角英世氏が、柏崎刈羽原発再稼働に関し「県独自の検証作業を進めて判断の材料を得た後、責任を持って私の考えを県民に説明する」と述べた。
- 5月31日 午前4時32分ごろ、熊本県熊本地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。熊本県八代市で震度3。
- 5月31日 泊原発で事故が起きれば生命や身体の安全が脅かされるとして、周辺住民ら約1200人が北海道電力に運転差し止めや廃炉を求めた訴訟の判決で、札幌地裁は「津波に対する安全性の基準を満たしていない」などとして、現在定期検査中の3基の運転差し止めを命じた。
- 判決を受け、北海道電力は「到底承服できず、速やかに控訴の手続きを行う」とのコメントを出した。
- 木原誠二官房副長官は、判決に対し、コメントはしないとした。原発の再稼働は、原子力規制委員会が認めた場合について地元の理解を得て行い、今回の判決によって再稼働のスケジュールに変更があるということではないと述べた。